



高校生と森の名手・名人との交流が美しい森林をつくる

第6回 森の“聞き書き甲子園”

全国から選ばれた 100 人の高校生たちが、森林と関わり
ともに生きてきた“森の名手・名人”たちを訪ね
“森の名手・名人”の技や人となりを「聞き書き」し
後世に伝えていく、森の“聞き書き甲子園”が今年もスタートしました。

聞き書きで、森林に関する文化や伝統を継承

地球温暖化を防止するための二酸化炭素の吸収源として、森林の役割に期待が寄せられている昨今、その期待の高まりとは裏腹の現状に直面しています。山村地域では都市化が進み、多くの若者は日常生活における森林との関わりを失い、過疎化・高齢化が進み、受け継がれてきた森



阿川さんと塩野さんのユーモア溢れるトークセッション



上：グループごとに、聞き書きを模擬体験
中：事例を用いた、塩野さんの講評
下：カメラの使い方を学ぶ高校生たち

森の“聞き書き甲子園” 今後の流れ

月	全体の流れ
9月	取材する“森の名手・名人”決定
10月	1回目の取材レポート作成期間
11月	2回目の取材
12月	
平成20年1月	レポートの提出（1月10日締切） レポート審査（フォーラムで発表する代表作品決定） 写真審査（フォーラムで表彰する写真を決定）
2月	聞き書き作品集の制作（100人分のレポートを冊子にします） 名手・名人写真パネルの制作（100人の名手・名人の姿をパネルにまとめます）
3月	23日、24日：フォーラム開催

林と関わる知恵や生活技術、生業などが失われようとしています。このような状況の中、森の“聞き書き甲子園”が平成十四年に始まりました。次代を担う高校生たちが森の名手・名人（森林に関わる分野において優れた技や知見を持ち、業を究め、生活者の模範となっている達人）と直接交流を図り、名手・名人の技や人となり話し言葉だけで文章にまとめ、後世に伝え残すというプロジェクトです。若い世代に社会一般における関心事として意識を高めてもらおうとする狙いもあります。

記録的な猛暑の八月一六日（木）、開会式が行われた東京都庁にある都民ホールに集まった高校生たち。皆これから体験する未知の聞き書きに不安げな様子でしたが、そんな気持ちをほぐすプログラムが用意されて

いました。まずは、実際の研修や聞き書きの様子を映したビデオ上映。続いて、TVなどでお馴染みの文筆家・インタビュアー阿川佐和子さんと作家塩野米松さんによる、インタビューのおもしろさや難しさについてのトークセッション。最後は、前回参加した卒業生と名手・名人らによるトークセッションが行われました。実際の活動内容を目にすることができ、またユーモアを交えたエピソードをいくつも聞けたことで緊張がほぐれたようで、式が終わる頃には、皆表情から不安感は消えていました。

その後は、東京都郊外の研修所にある場所を移して、四日間の研修。グループに分かれての聞き書き実習や塩野米松さんによる講評、写真撮影講習などが行われました。出会ったばかりの高校生たちが、寝起きをともにし、実習に励むうちに、結束し、高校生同士で議論する場面も会場のあちこちで見受けられました。

今回の研修で、改めて森林の大切さや自然環境の現状を再確認した高校生たちは、研修終了後、各自地元へ戻っていきました。しかし、これからが本当の“聞き書き甲子園”の始まりなのです。地元にいる“森の名手・名人”と交流を図りながらの聞き書きが待っています。森林や自然環境への思いを胸に、積極的に行動していくであろう、高校生たちの聞き書き体験が、“美しい森林”をつくり、地球温暖化の防止につながっていくことでしょう。皆様の周りで、“聞き書き甲子園”に参加している高校生がいましたら、応援してあげてください。